愛知県埋蔵文化財センター　年報　1986.3

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

昭和
60年度

調査課内資料図書
No3

3

1986

序

愛知県埋蔵文化財センターは、昭和60年４月に設立され、間もなく１周年を迎えようとしています。設立にあたっては、それまでの愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部における事業を継承し、主として名古屋環状２号線の建設に伴う事前の遺跡発掘調査を実施してまいりました。この間、愛知県教育委員会、建設省、日本道路公団、その他の関係者の深い御理解・御援助と御協力とをいただいて、順調に調査活動を進め、所期の目的を達成しつつあることを大きな喜びとして、深甚の謝意を表するものでございます。

遺跡調査の成果につきましては、これまで愛知県教育サービスセンターにあった当時、すでに昭和56年度から昭和59年度にかけて、「中間概報」、「年報Ⅰ～Ⅲ」と、四次にわたって刊行してまいりましたが、このたび昭和60年度における発掘調査成果を本書により公表することとしました。

本書が、考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用のうえでもお役に立つことができればまことに幸いと存じます。

本書の刊行並びに発掘調査にあたり、専門委員の諸先生及び愛知県教育委員会の御指導並びに建設省愛知国道工事事務所、日本道路公団名古屋建設局、愛知県土木部、地元市町村その他の関係者各位の多大な御協力をいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

昭和61年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
理事長　奥　田　信　之

例　言

1．本書は、財団法人愛知県埋蔵文化財センターの、昭和60年度の事業概要をまとめたものである。
2．調査は建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、愛知県土木部及び愛知県教育委員会から、愛知県教育委員会文化財課を通じての委託を受けて、本センターが実施した。
3．調査概要は、各遺跡ごとに、概略的にまとめ掲載した。
4．調査研究は、発掘調査及び整理作業を通じての研究成果の一部を、集録したものである。
5．発掘調査にあたっては、専門委員の各氏及び愛知県教育委員会文化財課の指導助言をいただいた。
6．発掘調査では、永金千佳・林素子・岡本直久・伊藤禎樹・亀井恵子・赤塚美智代・加藤とよ江・鈴木規子・河合明美各氏の協力を得、各関係機関・地元作業員の方々には過大の援助を賜わった。
7．文責は各文末に記した。

調査体制

理事長

奥田　信之　（県教育長）

常務理事

中林　　茂　（兼事務局長）

理　事

井関弘太郎　（名古屋大学教授）
伊藤　秋男　（南山大学教授）
大参　義一　（信州大学教授）
坪井　清足　（奈良国立文化財研究所長）
楢崎　彰一　（名古屋大学教授）
三浦　小春　（光陵女子短期大学教授）
花木　蔦雄　（都市教育長会会長（一宮市教育長））
伊藤　　芳　（町村教育長会会長（蟹江町教育長））
大橋　雄六　（県土木部長）
小島　俊夫　（県教育委員会社会教育部長）
林　　正治　（清洲貝殻山貝塚資料館長（清洲町長））
鈴木　睦美　（県陶磁資料館副館長）

監　事

本田　辰郎　（県出納事務局次長）
田中　隆三　（県教育委員会総務課長）

専門委員

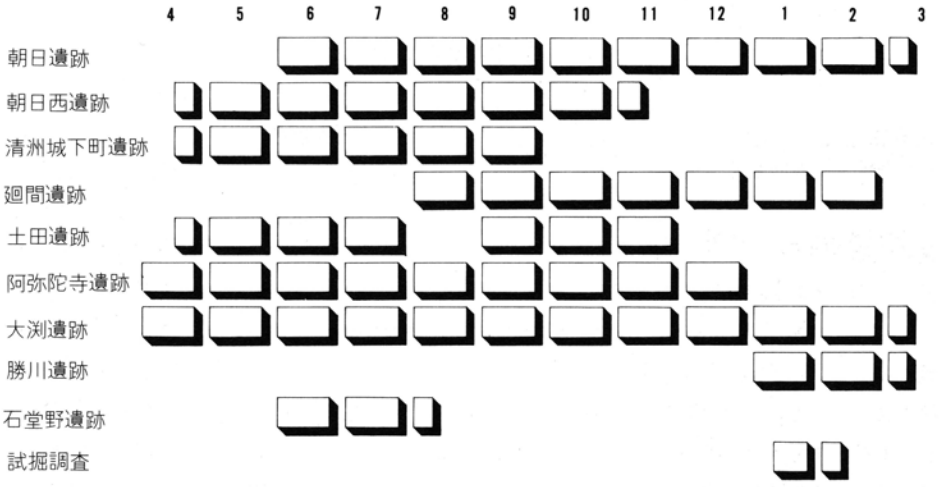
考古学	楢崎　彰一	（名古屋大学教授）
文献史学	早川　庄八	〃
地理学	井関弘太郎	〃
建築史学	浅野　　清	（愛知工業大学教授）
動・植物学	渡辺　　誠	（名古屋大学助教授）
形質人類学	池田　次郎	（京都大学教授）
保存科学	江本　義理	（東京国立文化財研究所保存科学部長）

調査課

課　　長	橋本　雅司
課長補佐兼主査	遠藤　才文
主　　事	鷲野　　勉
〃	佐藤　公保
嘱　　託	丹羽　　博
〃	安藤　義弘
主　　査	金原　　宏
主　　事	石黒　立人
主　　査	竹内　尚武
主　　事	小澤　一弘
〃	梅本　博志
嘱　　託	松原　隆治
〃	長島　　広
課長補佐兼主査	清水雷太郎
主　　事	平野　　清
〃	細野　正俊
〃	赤塚　次郎
嘱　　託	松田　　訓
主　　査	梅村　清春
主　　事	山田　耕治
〃	宮腰　健司
〃	池本　正明
嘱　　託	中野　良法
主　　査	上部　　肇
主　　事	浅井　和宏
〃	酒井　俊彦

管理課

課　　長	斎藤　樹三
主　　査	稲垣　隆一
主　　事	伊藤　義幸
〃	森　　信孔
〃	小倉　晴美



発掘調査工程表

遺跡名	担当
朝日遺跡	遠藤・鷲野・佐藤・丹羽・安藤・金原・石黒
朝日西遺跡	遠藤・佐藤・安藤
清洲城下町遺跡	竹内尚・小澤・梅本・松原・長島・遠藤・鷲野・丹羽
廻間遺跡	清水・細野・赤塚・小澤・長島・松田
土田遺跡	清水・細野・赤塚・服部*・竹内尚・平野・梅本・小澤・松田
阿弥陀寺遺跡	上部・浅井・酒井
大渕遺跡	梅村・山田・宮腰・池本・竹内宇*・竹内尚・平野・浅井・酒井・中野
勝川遺跡	松原・赤塚
石堂野遺跡	遠藤・宮腰
試掘調査	金原・梅本

* 現名古屋市教育委員会学芸員
（服部哲也、竹内宇哲）

目　　次

遺跡の位置…… 1

遺跡調査の概要 …… 3
朝日遺跡…… 4
朝日西遺跡…… 8
清洲城下町遺跡…… 10
土田・廻間遺跡…… 14
阿弥陀寺遺跡…… 18
大渕遺跡…… 22
石堂野遺跡…… 26
試掘調査…… 28
勝川遺跡…… 30

調査研究 …… 31
清洲城下町の堀の復元……金原　宏…… 32
人・獣骨類の出土した大溝……江原昭善・松本　真・木下　実
遠藤才文・小澤一弘…… 41
朝日西遺跡の井戸について……長島　広…… 56
「S字甕」覚書'85……赤塚次郎…… 64
弥生時代尾張地方の〈囲郭集落〉について……石黒立人…… 70
大渕遺跡に見る中世集落の一形態……池本正明…… 85
朝日西遺跡出土の紀年銘資料及び共伴遺物……服部哲也…… 89
尾張国の「条里制」小考……浅井和宏…… 98
朝日遺跡の玉作……丹羽　博…… 105
中世土師器研究ノート(1)……佐藤公保…… 114

埋蔵文化財センターの活動 …… 123
普及活動…… 124
整理業務…… 126

付篇…… 130
受贈図書目録

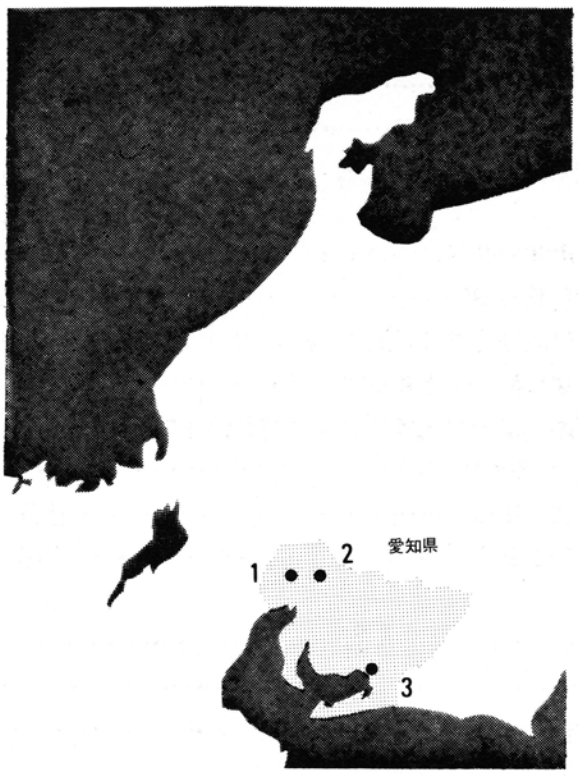
遺跡の位置

本年度発掘調査遺跡は９箇所であり、その他試掘調査３地点をこれに加えることができる。

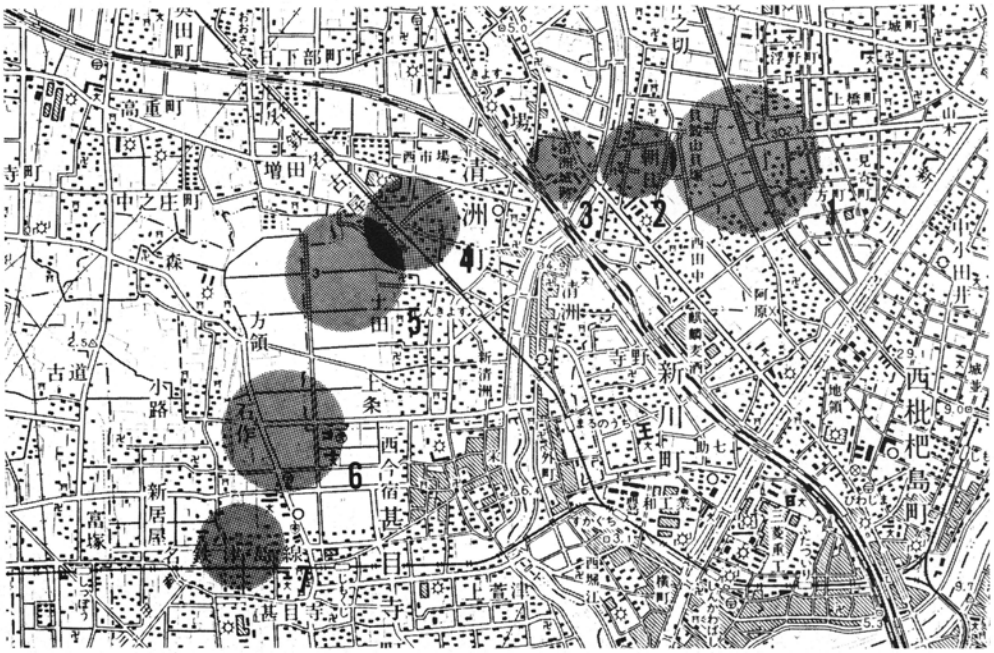
愛知県西春日井郡清洲町内・海部郡甚目寺町内での遺跡調査が主要な対象となっている。その内朝日遺跡・朝日西遺跡・清洲城下町遺跡・土田遺跡(以上清洲町)、阿弥陀寺遺跡・大渕遺跡(以上甚目寺町)は名古屋環状２号線建設に伴う継続的な調査であり、本年度はこれに廻間遺跡（清洲町）を新たに加えることができた。

勝川遺跡は愛知県春日井市に所在する遺跡であり、名古屋環状２号線建設・国鉄瀬戸線・土地区画整理事業の事前調査としてすでに昭和56年度から調査が継続的に行なわれている。(愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書第１集『勝川』1984)

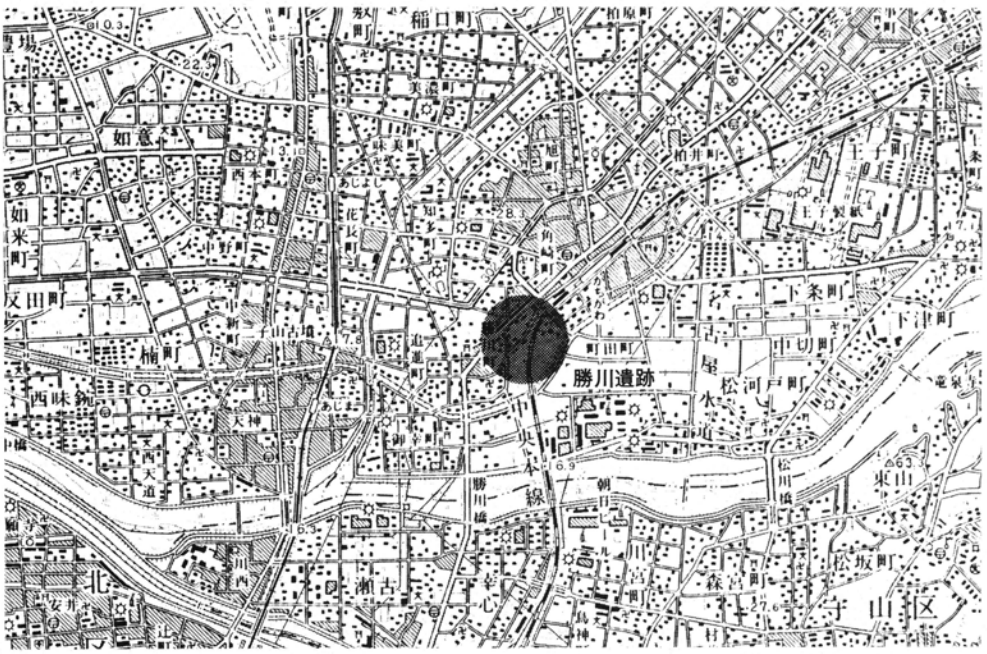
石堂野遺跡は愛知県宝飯郡御津町に所在し、その位置は本文26頁を参照されたい。



１．朝日遺跡・朝日西遺跡・清洲城下町遺跡・廻間遺跡
　　土田遺跡・阿弥陀寺遺跡・大渕遺跡
２．勝川遺跡　３．石堂野遺跡



1．朝日遺跡　2．朝日西遺跡　3．清洲城下町遺跡　4．廻間遺跡　5．土田遺跡
6．阿弥陀寺遺跡　7．大渕遺跡



遺跡位置図